

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 4 号）の送付について

このことについて、下記のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしく
お願いします。

記

1 情報の内容 ミナミトゲヘリカメムシによる複数種の果樹における被害について

2 発生状況

- (1) 本年 7 月、県内のキウイフルーツ園（品種：ヘイワード）及び複数品種のカキ園（品種：愛宕、清田、大秋）、アボカド園（品種：ベーコン）において、本種成虫による果実の吸汁及び被害を確認した（写真 1、2、3、4、7）。
- (2) 県内では令和 5 年にカンキツ園での被害を初確認しており（令和 5 年度病虫害発生予察特殊報参照）、今回、新たな 3 樹種での被害が確認されたが、他県における果実被害はカンキツ・カキ・スモモ・アボカドでは報告されているものの、キウイフルーツは未確認となっている。

3 形態の特徴と発生生態

体長は 16～23mm の細長い大型のカメムシ。本種はオオクモヘリカメムシに似るが、前胸部の側角がやや前方に鋭くとがっていることで区別できる（写真 9）。背部は暗緑色、腹部は淡黄緑色をしている。野外での寄主植物はシロモジ、クスノキ等のクスノキ科植物である。県内における越冬場所や年間の発生回数など詳しい生態は不明ではあるが、本年の果樹園での状況では、5 月中下旬、7 月上中旬頃に発生量の増加が認められた。

4 被害

県内の被害園において、キウイフルーツ、カキ、アボカドでは加害部分が大きく窪んだり、変色や亀裂が入るなど、本種による被害は一般的な果樹カメムシ類の被害と異なっていた。

(1) キウイフルーツ（ヘイワード）

本種が幼果期～果実肥大期に多発した園地では、加害箇所が茶褐色に変色し、陥没した果実が見られ、陥没した箇所を剥皮すると、種子部もしくは果芯にまで到達する穴が形成されていた（写真 2）。

本種による被害を確定するため、再現試験を実施した（6 月 9 日放飼、7 月 22 日回収）。健全なキウイフルーツ幼果（ヘイワード）1 果に成虫 3 頭を放飼した結果、現地と同様の変色および陥没被害が再現された（写真 5）。

(2) カキ（愛宕）

本種が多発した園地では、褐色に変色し、亀裂が生じた果実や、加害部分が陥没するものも見られた（写真 4）。剥皮すると果肉の変色や、ス上がり症状がみられる果実もあり、被害果の落果も目立った。

本種による被害を確定するため、再現試験を実施した（7 月 24 日放飼、7 月 28 日回収）。健全なカキ幼果（富有）1 果に成虫 3 頭を放飼した結果、現地と同様の変色および落果が確認された。（写真 6）。

(3) アボカド（ベーコン）

本種が多発した園地では、黒色に変色し、陥没した果実がみられた（写真7）。

本種による被害を確定するため、再現試験を実施した（7月24日放飼、7月28日回収）。健全なアボカド幼果（ベーコン）1～2果に成虫3頭を放飼した結果、現地と同様の被害が再現された（写真8）。

5 防除上の注意

- (1) 果樹カメムシ類に登録のあるネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤の効果が期待できる。薬剤防除に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し使用基準を遵守する。
- (2) 本種の寄主植物となるシロモジやクスノキ科の樹木が植生している雑木林が近い園地で発生が多くなるため、定期的に園地を見回るなど本種の発生に特に注意する。



写真1 キウイフルーツ果実を吸汁する
ミナミトゲヘリカメムシ成虫



写真2 キウイフルーツ被害果（左：変色,
右：陥没箇所下に形成された穴）



写真3 カキ果実を吸汁する
ミナミトゲヘリカメ
ムシ成虫



写真4 カキ被害果（左：変色, 中央：亀裂, 右：陥没）



写真5 放飼試験で再現されたキウイフルーツの被害果 (左:変色, 右:陥没箇所下に形成された穴)



写真6 放飼試験で再現されたカキの被害果



写真7 アボカド葉上のミナミトゲヘリカメムシの成虫と被害果



写真8 放飼試験で再現されたアボカドの被害果



写真9 ミナミトゲヘリカメムシの前胸背側角のとり (本種の特徴)